

第三回 熱海市図書館協議会会議録

- 開催日時 平成 29 年 9 月 24 日（日） 10 時～12 時
場 所 熱海市立図書館 5 階 第 1 会議室
出席者 協議会委員
井上 弘、野崎 たみ子、諏訪村 京子、櫻井 恭子
事務局
山田 真士、鈴木 秀明、川口 京子
- 次 第 1 会長挨拶
2 議題
(1) 平成 30 年度予算で進めるべき事業について
(2) 当館のコンセプトに『歴史に学び 未来を築く 市民の図書館』とあるが、具体的にどのような取り組みをすべきか。
3 その他
静岡県図書館大会への参加について

協議内容

1 会長挨拶 井上会長より挨拶

2 議題

(1) 平成 30 年度予算で進めるべき事業について

会 長 前回、図書館長から協議会としての意見をまとめてほしいと話があった。今協議会が今年度最後の話し合いであるため、意見・要望をまとめ、来年度の予算編成に活かしてもらえるよう、意識した話し合いをしていきたい。

今日の議題について、資料説明を事務局からお願いしたい。

事務局

図書館年報、図書館だよりについて説明します。

前回利用者の利用割合がわからないという意見をいただいたので、今年度の年報から、本館・移動図書館のそれぞれ利用者の男女別の人数及び年代別の利用割合を表示し、グラフを追加した。また、県立図書館の相互協力サービス等の内容がわからないとのことであったので、図書館だより（10 月 1 日発行秋号）にサービス内容等を掲載し、館内掲示・町内回覧をして、利用啓発を行っていく。

静岡県立中央図書館の蔵書をホームページから個人が直接予約等できる仕組みがあるが、これは県内各地区 3 館を県が指定し行っている事業であり、熱海はその中には含まれない。今後県が事業を拡張するときには、このシステムに参加するかどうか打診してくれると言っていたので、

そのときは参加したいと考えている。

では、本日の課題について説明をしていきたい。

前回の協議で「目指すべき図書館」として、7つ意見をもらっている。その中で、図書館として来年度の予算にどのように組み込んでいきたいか、考えを述べさせてもらいたい。学校との連携によるものは、読書環境の充実を新年度予算に計上したい。図書館と学校図書館のシステムを連携したいという意見が、学校図書館司書と図書館の意見が一致したため、なるべく進めていきたい。次に「学べる・調べる・利用できる」をキーワードに生涯学習施設としての充実を考えている。すぐにはできないかもしれないが、政策的に考えていきたい。

ボランティアの養成については、先進図書館の視察や養成方法の研究予算を確保したいと思う。

利用者促進については、アンケートの実施予算を計上したい。

新年度予算に計上したいと考えているものは以上の3点である。

会 長

これらについて意見はあるか。

具体的にイメージがわからないので、今の段階で話せることでよいので、もう少し具体的に話してもらえないか。

事務局

図書館と学校図書館の連携については、現在1校1校が単独で動いており、学校同士の連携ができない。また図書館も連携がなく、何とか連携して図書館司書の負担を減らすと同時に、図書館の資料を学校で有効に活用できるシステムを構築したいというところである。

会 長

システムの予算化ということか。

事務局

そうである。しかし、図書館の希望だけで進めていける事業ではなく、学校サイドと連絡を密にしなければならないので、来年度予算計上できるかどうか学校サイドと話し合いを進めていきたい。

会 長

今の話について、〇〇委員は学校司書として直接関わっているので、何か意見はないか。

委 員

そのシステムが構築されたら理想の学校図書館に近づくと思う。今は、学校図書館司書の努力によって、資料探しや運搬をしている。制度ができれば、なお一層充実できる。

会 長

システムができたなら、どういった利便性・メリットがあるのか。

事務局

児童・生徒が読みたい本を検索し、図書館に所蔵があればブックバスで学校に運ぶことができる。現在学校司書が作業している資料のブックコートフィルムの貼り付け等を業者が行って納品してもらえる。

委 員

学校図書館システム「スクールプロ」のソフトを使って、学校独自の登録を行っており、学校全体とはつながっていない。なので、図書館シス

テムとつながることができれば、作業等が非常に楽になる。ブックコートフィルムが貼って納品されれば、生徒・児童と関わる時間に利用できる。

委員 システムで繋がるというのは、図書館と学校の登録が一緒になることではないのか。ブックバスで学校に運ぶというのはどういうことか。

事務局 物流の面で、現在学校図書館司書が自身で運んでいるが、ブックバスを利用して運ぶということである。検索機能としては、連携したシステムを利用すれば、図書館と学校がそれぞれ登録したものをすべて検索できるようになる。

会長 そのシステムはかなりの費用がかかるのか。

事務局 費用はかかると思う。現在、先行導入している山梨県のシステムを参考に、見積書を作成してもらっているところである。

委員 システムについてはっきりわかるのはこれからなのか。

事務局 そうである。

会長 これは来年度進めていただくということでよいか。

事務局 予算要求に向けて準備を行っていく。

会長 では、次の項目について説明をお願いしたい。

事務局 図書館は「学べる・調べる・利用できる」という場所であることを全面的に出ていないと意見をいただいた。おっしゃるとおりで、本を借りに来る場所だけではないので、レファレンス等を充実させ生涯学習施設というイメージでとらえていかないといけないと考えている。

会長 これについて意見はあるか。

事務局 具体的に予算を要求して何かやろうと考えているのか。

事務局 PRの予算を確保し、「学べる・調べる図書館」ということを、有効的な方法で行っていきたいと考えている。

会長 同じ教育委員会の中に生涯学習課がある。生涯学習課はそもそも、学校教育とは違う生涯学習に関する事業を推進していくところであると思う。なので、図書館は生涯学習課と連携して事業を行うべきであると思うし、同じ方向に向かっていると、市としても、ちぐはぐな感じがしてしまう。

委員 ○○委員は、今までの経験からどう考えるか。

委員 こういうことが出てきたということは、貸し出しの伸びがあまりない状況の中で考えていることであると思う。新しい利用者を開拓し、貸し出しを伸ばすと言うことは1つの政策として進めていきたい。もう一つは図書館に新しい価値を生み出すことが必要である。これは大変なことであると思う。資料整理の問題、レファレンスツールを整えること。また、

- 来館者に質問をいつでも受けつけることのアピールが今の図書館には見当たらない。大きな目立つ看板をつける等工夫が必要である。質問がしにくいと感じる人にも気軽に話しかけられるよう工夫が必要である。
- 委員 レファレンスに関しては、山梨県立図書館のホームページに今までの質問とその回答に至るまでの経過等が細かく掲載してある。1つの質問に対し、納得できるまで導く過程が書いてあり、感心した。以前、私が資料はあるか質問したとき「ありません」と言われた。資料がないのであれば、それに変わる代替案を出せるような、利用者が納得するような回答ができるように熱海の図書館にもなってもらいたい。それには司書等職員の経験が実績に結びつくものなので、いろいろ構築されるのは時間がかかると思う。
- 委員 そもそも「レファレンスって何？」から始める、特にこれからの利用者である子どもに向け、児童サービスの一環として行う。学校では、調べかたの学習をしていると思う。知恵を出して機運を盛り上げていくのは時間がかかるかもしれないが行ってほしい。
- 事務局 レファレンスサービスをPRする第一歩として行ったのが、図書館だよりの発行である。各学校への掲示や町内回覧を依頼している。
- 委員 レファレンスは経験であると思う。いろいろな質問を受け、回答を探していくことが図書館を育てることに繋がると思う。
- 委員 レファレンス統計が出ているので、その中で典型的な質問・回答をホームページに掲載してはどうか。レファレンスを知ってもらうことに繋がると思う。
- 会長 いろいろな意見が出たが、方向性を打ち出されているものであると思うので、すぐにではなく、時間がかかるとは思うが進めてもらうということではどうか。
- 委員一同 はい。
- 会長 3点目のボランティアの養成について説明をお願いしたい。
- 事務局 ボランティア団体での若い世代が育っていない、また人数が足りていないという問題があると思う。そのあたりを調べながら、先進的なボランティア養成をしている図書館があれば参考にして要請していきたい。
- 会長 ボランティアの人たちは、どんな活動・作業をしているのか。
- 事務局 自分たちの目標に向かって行動しているボランティア団体がある。その団体と図書館がともに行動しなければならないが、お互いの意思が通じないところがあるので、蜜に意見を交換しないといけないと思う。
- 会長 図書館の図書整備等も含めてか。
- 事務局 一番多いボランティアは、4階のカウンター業務である。

そのほかの団体として、読み聞かせ・ブックトーク（図書館くらぶ）・親子英会話がある。これらの団体への協力体制が必要であると思う。

会 長 ボランティアを養成するために、予算は必要か。

事務局 まずは、ボランティアを育てている図書館を探し、市役所内の各部署で連携して育てていきたいと考えている。

会 長 ○○委員は実際にボランティア活動をしているが、どう考えるか。

委 員 市民が多く関わる図書館ということが大事である。その中の一つがボランティアであると思う。市民が参加する図書館になることが、利用者が増え図書館の理解も進むという上で、ボランティアは大事であると思う。近隣の参加型図書館は、南足柄であり、視察にも行っている。ボランティアの育成もそうであり、ずっと市民が図書館に関わっている。これはとても大事である。ボランティアは図書館が募集し、講座を開催し、その中から、図書館に関わりたいという人たちがグループを作って、読み聞かせや館内の飾りつけなどを行っている。

会 長 南足柄は人口が4万人程度で、熱海と規模が同じである。図書館も1館であり、建物も大きさも同じくらいではないかと思う。近いし、参考になると思うので、コンタクトを取ってもらいたい。しかし、2年後に小田原市と合併予定であるので、今後どのように変わってしまうかわからない。

委 員 お父さんの読み聞かせ等いろいろな行事を行っており、意見をいろいろ吸収して行っている図書館である。

事務局 子育てに関することでもあるので、健康づくり課等と共同で行いたい事業であると思う。○○委員から意見をいただいたように、市役所は連携が足りないと反省している。来年度に向け声を掛け合って進めていきたいと思う。

委 員 計画の中に、人材バンクのことが載っていた。熱海市のボランティアと人材バンクの関係は何か。

事務局 人材バンク登録は生涯学習課を中心に行っている。技術や知識を持っている人が、市民に活かさないかと登録してくれている。生涯学習課が開催している市民教室の講師は、人材バンクから選んでいる。

委 員 図書館に興味のありそうな人はいないのか。

事務局 そういう人がいたら、話をしてイベント等に参加してもらえないか考えているところである。

委 員 元図書館員もいるかもしれない。人材バンクと繋がりがあるといいと思う。

事務局 人材バンクの登録者も活用される数が少ないので、なるべく活用させた

いというところがあるので、こちらの意思と相手の考え方がうまく結びつけば、生涯学習課と連携し大いに活用したい。

委員

人材確保をお願いしたい。

会長

生涯学習課との連携を是非進めてほしい。

今まで話した3点についてはぜひ進めていくということによいか。

委員一同

はい。

事務局

「足を運んでもらえる図書館への施策」について、8つの意見をいただいた。

アンケートの実施という意見については、実施し分析を進めていきたい。それに基づき、図書館に足を運んでもらう仕掛け、イベント・講演会等を見直していきたい。その際、人材バンクを活用し、新しいイベント・講演会ができれば、図書館の新しい魅力になると思う。また、各部署との連携も視野に進めていきたい。

館内の無料Wi-Fi設置や県立図書館とのネットワーク化について、意見をいただいているが、現在の図書館環境で実施可能かどうか検討をしていきたい。

会長

アンケートに実施については、市民の要望を出すことが大事であると言う委員の意見を汲んで実施をするということであるが、何か意見はあるか。

委員

利用者アンケートは、ネット等で調べれば他館の情報がわかると思うが、熱海は一度も実施したことがないので、ぜひ実施してほしい。なるべく多くの人に回答してもらい、その結果を必ず公表するということが大切である。図書館利用者に公表することによって、自分の意見が出ているとわかると、より充実すると思う。

会長

具体的な実施方法として、館内に回収箱を設置するなど、どう考えているのか。

事務局

来館者にカウンターで記入してもらおう方法等を考えている。公表については、図書館だよりの中で行ってきたい。

委員

図書館だよりに掲載するだけでなく、館内に大きく掲示してほしい。

会長

図書館利用者については、説明をしてもらった形で実施できるが、利用していない人についてはどのように考えているか。

事務局

他部署で市民アンケートを、毎年無作為に対象者を選び実施しているので、それを利用したい。

会長

市民アンケートは年1回行っているのか。

事務局

そうである。

委員

以前、図書館のPFI構想があったときに実施していたが、利用者アン

ケートの実施は一度もしていないので、ぜひお願いしたい。

会 長 市民アンケートの中で、毎年、図書館についてのアンケートを実施しているのか。

事務局 こちらでアンケートを希望しないと質問には載らない。

会 長 希望すればアンケートができるのであれば、活用することができるので、利用しない人のアンケートについてはその方法でお願いしたい。

事務局 市民アンケートとは別に、利用者アンケートを実施し、結果を公表してほしい。

事務局 次のイベント・講演会等についてであるが、具体的にはまだ決まっていないのか。このあたりは実施するとなると予算化が必要であると思う。現在開催しているイベントは予算化して行っているものである。他の部署と内容やイベント開催日が重ならないように精査していきたい。特に子どもに対するイベントは、子どもの取り合いになりかねないので注意を図っていきたい。

会 長 学校現場にいたものとしては、イベントの回数が増え、子どももパンク状態になっているのが現状である。子ども向けのイベントを行うのであれば、関心があるものにして、ためになるものに絞っていく必要がある。

委 員 連携が必要である。

委 員 学校行事とイベントが重なると、子どもの参加人数が少なくなってしまうので、連携して日が重ならないようにすることも大事である。

事務局 図書館フェスティバルも学校行事に重ならないように調整した。しかし、このイベントは今年度の予算化はなかったものである。来年度は予算化も考え、内容も他部署のイベントと連携して考えていきたい。

会 長 イベントのターゲットというと小学生というイメージであるが、熱海は高齢化が際立っているので、高齢者が参加しやすいものにシフトしていったほうが良いのではないかと思う。小学生の土・日曜日は、スポーツクラブの活動等で、高齢者より忙しい。行政も意識を変えていってはどうか。

委 員 読書推進のため子ども向けのイベントはもちろん必要であるが、合わせて高齢者向けのイベントを考えてもらいたい。

委 員 他部署と連携してイベントを行う場合、予算面が複雑になることはないのか。

事務局 予算は必ず縦割りにになってしまうので、教育長に提言し、連携イベントとして市で考えていくように図っていきたい。

会 長 ぜひ改善して進めていってほしい。

無料W i - F i や他部署とのネットワークは検討していくということであるので、今後時間をかけてということによいか。

- 委員 無料W i - F i ということは、自分のパソコンを持ち込んで使えるということですよ。その場所はあるのか。
- 事務局 館内でスポットを決めて利用してもらうことになる。たとえば学習室で利用するという形が一つの例である。
- 会長 ほか意見・要望はあるか。
- 委員 この間、市制80周年のイベントが起雲閣で行われ、いろいろな話をしていた。観光地熱海としての話を聞いていると、地域資料をまとめる場所が必要であると思った。市の行事と連携するようなものが必要である。観光白書にも熱海のこと掲載されているので、それを宣伝すべきであると思う。現在置いてあるパンフレットのコーナーを充実させると同時に、熱海の観光に関するものを並べ、紹介するコーナーがあるいいと思う。熱海の図書館に行けば、熱海のことわかるようにすれば観光客は便利であると思う。例えば、岐阜の図書館では「おすすめのランチ」を作成していた。熱海は観光地なので、利用者から意見を聞いて観光客に向けたものがあると良いと思う。
- 事務局 今年の夏に4階特集コーナーで、熱海でロケを行った作品の原作本を特集した。これが好評であり、良い発見になったと思う。来年はコーナーをもっと充実させ、旅行誌の観光案内等も並べ、観光客だけでなく、帰省者も再発見できる資料を揃えていきたいと考えている。
- 委員 入り口のチラシを置いてあるスペースを活用し、常設コーナーになればいいと思う。
- 会長 今委員さんたちから出た提案を、今後の運営の中で活かしてもらいたいと思う。
- 事務局 次に3点目の「図書館の利用促進・PR策」に進みたい。
- 事務局 読み聞かせ等図書館ボランティアの方には、10年間同じ報償等で活動してもらっており、ご苦勞をかけていると思う。新しい内容を盛り込みながら予算計上していきたいと考えているが、ボランティアの方と話し合う時間を作り、内容を協議しながら予算計上に反映させていきたいと思っている。
- 委員 こちらに投げかけるだけでなく、育成に関しては図書館主導で行いボランティアを増やす努力をしてほしい。
- 事務局 もちろん承知している。今説明しているのは、会を開催するときどのような備品が必要であるとか意見をもらいたいということである。
- 会長 来年度の予算計上に向けて進めてもらいたい。

その他に予算に関連した意見はあるか。

委員 今年度の図書館協議会の開催は3回であったが、来年度は開催回数を増やし、視察も取り入れてもらいたい。また、協議会委員内で情報交換を行いたい。

図書館協議会の役割を県立図書館から話を聞く機会を設けてもらい勉強をしたいと考えているが、熱海市から県立図書館へ打診をしてもらえるか。

会長 今年は初めての開催であったため、時期的なもの等は事務局で決めてもらっていたが、図書館側は来年度の開催についてどのように考えているのか。

事務局 来年度は視察等を含め、5回開催できるよう予算要求をしていきたいと考えている。

県立図書館へ研究会の有無を確認したが、図書館職員を対象とした研修会の開催のみであるとの回答があった。協議会委員の職員対象研修会への参加の可否については、検討してもらっているところである。

委員 熱海市立図書館年報の利用者統計を年代別に掲載されていて参考になった。その中で16歳から18歳の利用率が非常に少ない。ヤングアダルトの年代であるが、熱海高校との連携を考えていくことはできないか。例えば、職業体験からのきっかけ作りなどは考えていけないだろうか。

事務局 小学校・中学校は毎年職業体験を受け入れ活動している。ヤングアダルトの利用が少ないことは問題視しており、学校図書館と連携しておすすめの本のポスターを掲示したり、図書館のツイッターで本の紹介を行ったりとしているが、始めたばかりであり、まだ成果は出ていない。今後どう発展させ展開していくか考えているところである。

委員 開館日についてであるが、現在、祝祭日は閉館しているが家族や学生が来館しやすいのは祝祭日なので開館することを検討できないか。

また、職員配置についてであるが、ベテラン司書を配置することは図書館が動き出すための重要なエンジンとなると思うので、人員の増員を予算に反映させてもらいたい。

事務局 現在、毎日来館者数の統計を取り、平日・休日の利用者の人数を把握しているところである。その中で休日の利用者が平日に比べ非常に多いと結果が出れば、祝祭日の開館も検討していきたいと考えている。

人員の配置については、承知しているが理解を得られない現状がある。今後も提案はしていきたい。

(2) 当館のコンセプトに『歴史に学び 未来を築く 市民の図書館』とあるが具体的にどのような取り組みをすべきか

会 長 　　では、次の議題に進みます。

事務局 　平成19年から「歴史に学び 未来を築く 市民の図書館」をコンセプトとして活動している。そのコンセプトは継続し、来年度以降も展開していくが、その活動等についてご意見をいただきたい。

会 長 　　「会話のできる児童室」というのはどういうものか。

事務局 　図書館は静かに本を読む場所というイメージがあるが、児童室は就学前の子どもを連れた親子での利用が多い。その親子がまわりを気にせず、子どもとのコミュニケーションをとりながら読み聞かせをする、親同士の情報交換ができる場所、子育ての発展の場のひとつとして開始した事業である。

会 長 　　利用状況はいかがか。また、他の図書館では同じような提供の仕方をしているのか。

事務局 　数組であるが利用はある。他の図書館では、読み聞かせができるスペースを設けてあるところがある。

会 長 　　温泉資料コーナーについては、「熱海温泉誌」が販売されたことによって変わってくると思うし、温泉誌を作成したときに収集し利用した資料を今後どのように整理し、オープンにして活用していくかによって違ってくると思う。これに対してのアピールをすべきであると思う。

展示物についても、素人が行うものと専門家が行うものでは大きな差がある。人材バンク等を活用し、お金をかけずに行うことも必要ではないかと思う。

委 員 　　「生涯教育」という点が弱いように感じるので、もっと盛り込んではどうだろうか。

委 員 　　障害を持っている方に対する配慮、多文化・多言語対応も考えていってもらいたい。

会 長 　　今後良い方向に変えていく、気が付いたときに随時検討し、変更する形で対応していってもらいたい。

これで本日の協議会を終了させていただきます。